

演題名	小規模繁殖和牛農家の高齢化に対する取り組み - ばあちゃんの引き出し「カウBOX」 -		
発表者 氏名	神戸三希	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>長野県の肉用牛飼養状況は、昭和50年を100とした場合平成10年は飼育戸数は14.8、飼育頭数は88.7であり、特に飼育戸数の減少は飼育者の高齢化等の要因により顕著。</p> <p>今回、管内の老年人口割合が高いA村（飼育者の平均年齢70.1歳）の1繁殖和牛飼育農家において、飼育継続を図るための取り組みを実施。農家の現状から、飼養管理の省力化を目的に、育種価等を参考に飼育牛の更新を検討、新規導入牛は、放牧場を活用するため独自に作成した飼養管理プログラム（夏山冬里・季節繁殖方式）に基づき飼育を開始。さらに、冬季舎飼の給餌簡略化を図るために「カウBOX」を考案し設置。「カウBOX」は材料費は約1,600円で、あらかじめ2日分（4回分）の自家配合飼料を収納することができ、引き出し方式により1回ずつ飼槽に投下が可能。</p> <p>取り組みの結果、「カウBOX」を利用することにより、いつでも誰でもヘルパーとなることが可能となり、高齢者の飼育継続を図る手法として有効と考察。</p>			